

I Tサービス・ソフトウェア

1. 評価対象企業（9 社）

日鉄ソリューションズ、TISI（注）、野村総合研究所、オービック、トレンドマイクロ、日本オラクル、オービックビジネスコンサルタント、大塚商会、BIPROGY

（注）TIS が商号を変更した（2026 年 7 月）

（証券コード協議会銘柄コード順）

2. 評価方法

（1） 評価基準の構成および配点

評価分野	下記本文中の略称	評価 項目（注）数	配点
①経営陣の IR 姿勢、IR 部門の機能、IR の基本スタンス	経営陣の IR 姿勢等	3	30
②説明会、インタビュー、説明資料等における開示	説明会等	2	20
③フェア・ディスクロージャー	フェア・ディスクロージャー	1	15
④ESG に関連する情報の開示	ESG 関連	4	30
⑤各業種の状況に即した自主的な情報開示	自主的情報開示	1	5
計		11	100

（注）具体的な評価項目の内容および配点は後掲。

（2） 評価実施アナリストは 17 名（所属先 17 社）である。（氏名等は後掲）

3. 評価結果

（1） 総括（「ディスクロージャー評価比較総括表」は後掲）

- ① 本年度は、一部評価項目の見直しを行ったため、昨年度と同列には比較できないが、本年度の総合評価平均点は、70.0 点（昨年度 69.8 点）であった。なお、総合評価点の標準偏差は 14.5 点（昨年度 14.0 点）となった。なお、個社で見ると、オービックビジネスコンサルタント（+5.8 点）、オービック（+4.0 点）の上昇が目立った。
- ② 5 つの評価分野毎に平均得点率（評価対象企業の平均点／配点〈以下省略〉）を見ると、**経営陣の IR 姿勢等**が 69%（昨年度 67%）、**説明会等**が 78%（昨年度 76%）、**フェア・ディスクロージャー**が 72%（昨年度 75%）、**ESG 関連**が 64%（昨年度 65%）、**自主的情報開示**が 76%（昨年度 75%）となった。
- ③ 評価項目について見ると、全 11 項目のうち平均得点率が 80%以上のものはなく、8 項目が 70%台となった。そのうち、最も高い平均得点率は、次の**説明会等**の項目であった。

- ・ 「売上高および利益が四半期ベースで十分に開示され、また変動要因について十分に説明されていますか。セグメントの分類は的確であり、変更があった場合（合併等を含む）、過去と比較可能な情報が十分に開示されていますか」（平均得点率 79%〔昨年度 78%〕）（得点率（評価点／配点〈以下省略〉）：60%台 1 社・70%台 4 社・80%台 3 社・90%台 1 社）

- ④ 一方、経営陣の IR 姿勢等の中の次の 1 項目は、平均得点率が 50% 台となり、低水準であった。評価対象企業間の得点較差が大きく、下位評価企業の経営陣には、IR 活動への積極的な取組みを強く求めたい。

・ 「有益な主要事業に関する説明会・技術説明会等を開催していますか。併せて、IR 部門以外のセクションへのインタビュー等について積極的に対応していますか」(平均得点率 56% [昨年度 50%]) (得点率: 20% 台 2 社・30% 台 1 社・40% 台 1 社・60% 台 3 社・70% 台 1 社・80% 台 1 社)

- ⑤ ESG 関連の 4 項目のうち、下記の 2 項目 ((a) (b)) は、依然として評価対象企業間の得点較差が大きかった。また、(d) は平均得点率が 20% 台となり、昨年度に比べ得点率が大きく下がり、全 11 項目のうち、最も低い水準であった。投資家等と社外取締役との対話の重要性が増していることを踏まえ、今後の積極的な取組みを期待したい。

- (a) 「中・長期経営計画を公表し、達成のための具体的方策およびその後の進捗状況、重視する経営指標（例えば、営業利益率、ROE、資本コスト等）が、十分に説明されていますか」(平均得点率 66% [昨年度 73%]) (得点率: 30% 台 2 社・40% 台 1 社・50% 台 1 社・60% 台 1 社・80% 台 2 社・90% 台 2 社)
- (b) 「資本政策(キャピタルアロケーション、金庫株等)、株主還元策（配当性向、自社株買い等）に関し十分に説明されていますか」(平均得点率 72% [昨年度 71%]) (得点率: 40% 台 2 社・50% 台 2 社・70% 台 1 社・80% 台 2 社・90% 台 2 社)
- (c) 「非財務情報（人材戦略などの ESG 情報）を統合報告書、ESG 説明会などで開示し、経営の長期的課題に対する取組みと目標値（KPI）、およびその進捗状況を投資家にわかりやすく伝えていますか」(平均得点率 70% [昨年度 67%]) (得点率: 40% 台 1 社・50% 台 2 社・60% 台 2 社・70% 台 2 社・80% 台 1 社・90% 台 1 社)
- (d) 「社外取締役と株式市場の間で理解が深まるような取組みをしていますか」(平均得点率 26% [昨年度 34%]) (得点率: 10% 台 1 社・20% 台 5 社・30% 台 2 社・40% 台 1 社)

(2) 上位 3 企業の評価概要

第 1 位 野村総合研究所（ディスクロージャー優良企業 [10 回連続 18 回目]、

総合評価点 88.6 点 [昨年度比+1.4 点])

- ① 同社は、経営陣の IR 姿勢等（得点率（以下省略）89%）、説明会等（88%）、ESG 関連（84%）、自主的情報開示（86%）が第 1 位、フェア・ディスクロージャーが同得点第 1 位（100%）となった。昨年度に比べて、5 分野全てにおいて得点率が同率（満点）または改善した。
- ② 経営陣の IR 姿勢等においては、「経営陣の IR 姿勢」および「IR 部門の機能」（2 項目）の全ての項目が最も高い評価となった。これらに関連して、決算説明会に加え、各種 IR イベントなどを通じて、経営陣との対話機会が豊富に設けられている点を評価する声や、スモールミーティングの対話内容を積極的に開示している点を評価する声が寄せられた。また、社長自ら中期経営計画や AI 駆動開発方針、海外組織再編などの経営戦略を詳細に説明している点を評価する声があった。IR 部門主催の有益な主要事業に関する説明会として、中期経営計画フォローアップ説明会を挙げる声が多く寄せられた。
- ③ 説明会等においては、「売上高および利益が四半期ベースで十分に開示され、また変動要因について十分に説明されていること、セグメントの分類は的確であり、変更があった場合（合併等を含む）、過去と比較可能な情報が十分に開示されていること」および「顧客業種別売上高構成、顧客規模別売上高構成、主要顧客の動向などが十分に記載され、費用の主要項目（労務費、外注費、機器販売原価等）および従業員数等の実績および計画が十分に記載されていること、また変動要因について十分に説明されていること」が共に最も高い評価となった。これらに関連して、AI ディスラプションに対する市場の懸念に対し、会社側の説明に説得力があり、事業の競争力や成長性に対する理解を深められる点を評価する声が寄せられた。また、セグメント別かつ国内・海外別の業績推移や変動要因が分かりやすく開示されており、事業動向を把握しやすい点を評価する声があった。
- ④ フェア・ディスクロージャーの「四半期ごとに決算説明会を開催し、その状況（質疑応答を含む）が、終了後同日中に電話やウェブキャスト、またはテキストなどで確認できること」は、満点評価となった。

- ⑤ **ESG 関連**においては、「目標とする経営指標等」および「ESG に関する情報の開示」が最も高い評価となったほか、「資本政策、株主還元策の開示」は第 2 位に、「社外取締役との対話」は同得点第 2 位となった。これらに関連して、統合レポートの質が高く、ESG に関する取り組みや考え方を分かりやすく開示している点の評価する声や、配当および自己株取得を含む株主還元方針が明確であり、機動的な資本政策を実施している点の評価する声が寄せられた。また、中期経営計画において AI 関連売上や投資額を開示するとともに、ネット D/E レシオやネット有利子負債 EBITDA 倍率などの財務規律を明示している点の評価する声や、ROE 目標の引上げおよび自己株取得の開示などを評価する声があった。一方、社外取締役のコミットメントを確認できる直接的なコミュニケーションの機会を要望する声があった。
- ⑥ **自主的情報開示**の「事業または財務上のリスク情報（不採算案件の発生、不祥事、情報漏洩、製品・サービスの不具合、リスク資産、関連会社の動向等）の開示が十分になされていること」は最も高い評価であった。これに関連して、海外事業における減損の概要や発生背景など、ネガティブな情報を含めた課題事業の状況についても詳細に開示している点の評価する声が寄せられた。

これら同社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められるので、同社を本年度の当業種における優良企業として選定した。

第 2 位 T I S I （総合評価点 85.2 点【昨年度比+0.6 点】、昨年度第 2 位）

- ① 同社は、フェア・ディスクロージャーが同得点第 1 位(100%)、経営陣の IR 姿勢等(81%)、説明会等(85%)、ESG 関連(83%)、自主的情報開示(82%)が第 2 位となった。
- ② **経営陣の IR 姿勢等**においては、「経営陣の IR 姿勢」および「IR 部門の機能」(2 項目)が共に第 2 位となった。これらに関連して、社長自ら中期経営計画や AI 駆動開発方針について詳細に説明しており、経営戦略の発信力が高まっている点の評価する声が寄せられた。また、経営トップとの対話機会が充実している点の評価する声があった。このほか、IR 部門の豊富な経験や説明スキルなどを評価する声もあった。
- ③ **説明会等**においては、「売上高および利益が四半期ベースで十分に開示され、また変動要因について十分に説明されていること、セグメントの分類は的確であり、変更があった場合(合併等を含む)、過去と比較可能な情報が十分に開示されていること」および「顧客業種別売上高構成、顧客規模別売上高構成、主要顧客の動向などが十分に記載され、費用の主要項目(労務費、外注費、機器販売原価等)および従業員数等の実績および計画が十分に記載されていること、また変動要因について十分に説明されていること」が共に第 2 位となった。これらに関連して、顧客業種別売上、外注費、従業員数など、事業実態の理解に資する情報開示が充実している点の評価する声が寄せられた。また、上位顧客別の売上動向について、取材等を通じて詳細な情報提供が行われている点の評価する声があった。なお、中期経営計画における重要セグメントであるオフアリングサービスの売上内訳や、粗利率の変動要因や業績下振れの理由について、開示の充実を望む声もあった。
- ④ **フェア・ディスクロージャー**の「四半期ごとに決算説明会を開催し、その状況(質疑応答を含む)が、終了後同日中に電話やウェブキャスト、またはテキストなどで確認できること」は、満点評価となった。
- ⑤ **ESG 関連**においては、「資本政策、株主還元策の開示」および「社外取締役との対話」が共に最も高い評価となったほか、「目標とする経営指標等」および「ESG に関する情報の開示」が共に第 2 位となった。これらに関連して、統合報告書の質が高く、ESG に関する情報開示が充実している点の評価する声が寄せられた。また、ROE16%目標や EPS 成長率の開示に加え、総還元性向方針を明確に示している点や、中期経営計画における具体的な施策や注力領域の実績推移、予実差について丁寧に開示している点の評価する声があった。
- ⑥ **自主的情報開示**の「事業または財務上のリスク情報（不採算案件の発生、不祥事、情報漏洩、製品・サービスの不具合、リスク資産、関連会社の動向等）の開示が十分になされていること」は第 2 位であった。これに関連して、不採算案件や統合に関する説明が充実しており、課題や取り組み状況について丁寧に情報開示している点の評価する声が寄せられた。また、AI 活用戦略や事業環境に関する情報開示を行っている点の評価する声があった一方、AI 活用戦略については、業績への具体的な寄与や効果に関する開示の充実を望む声もあった。

第3位 BIPROGY（総合評価点 78.0 点【昨年度比+2.8 点】、昨年度第4位）

- ① 同社は、フェア・ディスクロージャーが同得点第1位（100%）、ESG 関連が第3位（73%）、経営陣の IR 姿勢等が第4位（73%）、自主的情報開示が同得点第4位（74%）、説明会等が第5位（78%）となった。昨年度に比べて、5分野のうち自主的情報開示を除く4分野において得点率が同率（満点）または改善した。
- ② 経営陣の IR 姿勢等においては、「経営陣の IR 姿勢」が第3位、「IR 部門の機能」（2項目）が第4位となった。これらに関連して、社長自ら経営戦略や業績動向、経営方針の進捗について丁寧に説明しており、説明会での発信力が高まっている点を評価する声が寄せられた。また、社長が質疑応答に積極的に回答するなど、投資家との対話を重視する姿勢を評価する声があった。なお、経営戦略の実効性を示す KPI の開示充実を望む声もあった。IR 部門主催の有益な主要事業に関する説明会として、リテール事業説明会などを挙げる声があった。
- ③ 説明会等においては、「売上高および利益が四半期ベースで十分に開示され、また変動要因について十分に説明されていること、セグメントの分類は的確であり、変更があった場合（合併等を含む）、過去と比較可能な情報が十分に開示されていること」が第4位、「顧客業種別売上高構成、顧客規模別売上高構成、主要顧客の動向などが十分に記載され、費用の主要項目（労務費、外注費、機器販売原価等）および従業員数等の実績および計画が十分に記載されていること、また変動要因について十分に説明されていること」は第6位となった。これらに関連して、顧客業種別売上や主要費用項目に加え、四半期単体の変動要因についても開示しており、事業状況を把握しやすい点を評価する声が寄せられた。なお、買収したカタリナマーケティングジャパンに関する情報開示の更なる充実や、注力領域（コア事業・成長事業）における対象をより明確に絞り込んだ説明を望む声があった。このほか、AI 活用による効果や業績への貢献について、定量的な情報開示の充実を望む声や、自社主催の事業説明会の開催機会の拡充を望む声があった。
- ④ フェア・ディスクロージャーの「四半期ごとに決算説明会を開催し、その状況（質疑応答を含む）が、終了後同日中に電話やウェブキャスト、またはテキストなどで確認できること」は、満点評価となった。
- ⑤ ESG 関連においては、「目標とする経営指標等」および「ESG に関する情報の開示」は第3位となったほか、「資本政策、株主還元策の開示」は第4位に、「社外取締役との対話」は第5位となった。これらに関連して、資本政策（キャピタル・アロケーション）の計画や進捗状況を説明会資料に参考情報として掲載している点を評価する声が寄せられた。なお、社外取締役のコミットメントを確認できる直接的なコミュニケーションの機会を要望する声があった。
- ⑥ 自主的情報開示の「事業または財務上のリスク情報（不採算案件の発生、不祥事、情報漏洩、製品・サービスの不具合、リスク資産、関連会社の動向等）の開示が十分になされていること」は、同得点第4位であった。これに関連して、M&A に関する情報について、迅速かつ十分な開示を望む声があった。

以 上

2026年度 ディスクロージャー評価比較総括表 (ITサービス・ソフトウェア)

(単位:点)

順位	評価項目 評価対象企業	総合評価 (100点)	1. 経営陣のIR姿勢、 IR部門の機能、IR の基本スタンス	2. 説明会、インタビュー、 説明資料等における 開示	3. フェア・ディスク ロージャー	4. ESGに関連する 情報の開示	5. 各業種の状況に即した 自主的な情報開示	前回 順位
			評価項目3 (配点 30点)	評価項目2 (配点 20点)	評価項目1 (配点 15点)	評価項目4 (配点 30点)	評価項目1 (配点 5点)	
			評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位
1	4307 野村総合研究所	88.6	26.6	1	15.0	1	4.3	1
2	3626 TISI	85.2	24.2	2	15.0	1	4.1	2
3	8056 BIPROGY	78.0	21.9	4	15.0	1	3.7	4
4	2327 日鉄ソリューションズ	77.3	22.3	3	15.0	1	3.6	5
5	4704 トレンドマイクロ	73.9	21.5	5	15.0	1	4.0	6
6	4733 オービックビジネスコンサルティング	61.4	19.9	6	7.0	7	3.7	8
7	4716 日本オラクル	55.3	13.6	9	15.0	1	3.3	9
8	4768 大塚商会	52.4	17.3	7	0.0	8	3.6	7
9	4684 オービック	50.3	17.0	8	0.0	8	3.7	4
	評価対象企業評価平均点	70.02	20.82		10.78		3.81	

2026年度の具体的評価項目および配点（ITサービス・ソフトウェア）

【評価期間：2025年7月～2026年6月】

1. 経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス（30点）	配点	委員のみ
(1)経営陣のIR姿勢		
・決算説明会などに経営トップが自ら出席して経営戦略等を十分に説明していますか。 【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	10	
(2)IR部門の機能		
①経営陣がIR対応組織を整備し、IR部門に十分な情報が集積されており、IR担当者と有益なディスカッションができますか。	10	
②有益な主要事業に関する説明会・技術説明会等を開催していますか。併せて、IR部門以外のセクションへのインタビュー等について積極的に対応していますか。 【充実していた説明会等名をコメント欄に記入して下さい】	10	
2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示（20点）	配点	委員のみ
①売上高および利益が四半期ベースで十分に開示され、また変動要因について十分に説明されていますか。セグメントの分類は的確であり、変更があった場合（合併等を含む）、過去と比較可能な情報が十分に開示されていますか。	10	
②顧客業種別売上高構成、顧客規模別売上高構成、主要顧客の動向などが十分に記載され、費用の主要項目（労務費、外注費、機器販売原価等）および従業員数等の実績および計画は十分に記載されていますか。また変動要因について十分に説明されていますか。	10	
3. フェア・ディスクロージャー（15点）	配点	委員のみ
・四半期ごとに決算説明会を開催し、その状況（質疑応答を含む）が、終了後同日中に電話やウェブキャスト、またはテキストなどで確認ができますか。 [終了後同日中にできる：15点 後日できる：7点 できない：0点]	15	●
4. ESGに関連する情報の開示（30点）	配点	委員のみ
(1)目標とする経営指標等		
・中・長期経営計画を公表し、達成のための具体的方策およびその後の進捗状況、重視する経営指標（例えば、営業利益率、ROE、資本コスト等）が、十分に説明されていますか。	7	
(2)資本政策、株主還元策の開示		
・資本政策(キャピタルアロケーション、金庫株等)、株主還元策（配当性向、自社株買い等）に関し十分に説明されていますか。	7	
(3)ESGに関する情報の開示		
・非財務情報（人材戦略などのESG情報）を統合報告書、ESG説明会などで開示し、経営の長期的課題に対する取組みと目標値（KPI）、およびその進捗状況を投資家にわかりやすく伝えていますか。	12	
(4)社外取締役との対話		
・社外取締役と株式市場の間で理解が深まるような取組みをしていますか。	4	
5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示（5点）	配点	委員のみ
・事業または財務上のリスク情報（不採算案件の発生、不祥事、情報漏洩、製品・サービスの不具合、リスク資産、関連会社の動向等）の開示が十分になされていますか。	5	

（注）委員のみ記入の●は「調整・統一入力項目」

IT サービス・ソフトウェア専門部会委員

部 会 長	上野 真	大和証券
部会長代理	菊池 悟	SMBC 日興証券
	大浦 裕太	第一生命保険
	黒木 文明	ニッセイアセットマネジメント
	桜井 雄太	野村アセットマネジメント
	田中 誓	ゴールドマン・サックス証券
	堀 雄介	みずほ証券

評価実施アナリスト（17 名）

新井 光樹	三井住友トラスト・アセットマネジメント	桜井 雄太	野村アセットマネジメント
井澤 宏之	SBI 岡三アセットマネジメント	田中 誓	ゴールドマン・サックス証券
岩渕 啓介	岡三証券	滑川 晃	シュローダー・インベストメント・マネジメント
上野 真	大和証券	根岸 慎太郎	大和アセットマネジメント
大浦 裕太	第一生命保険	原田 大輔	QUICK
大谷 章夫	東京海上アセットマネジメント	堀 雄介	みずほ証券
川崎 朝映	岩井コスモ証券	山科 拓	マッコーリーキャピタル証券会社
菊池 悟	SMBC 日興証券	渡辺 洋之	三井住友 DS アセットマネジメント
黒木 文明	ニッセイアセットマネジメント		

（注） 上記各アナリストの評価実施企業は、各人それぞれ異なることに留意。